

**平成28年度  
第1回  
関市総合計画審議会  
会議録**

(平成28年7月22日)



# 関市総合計画審議会

## 1 日 時

平成28年7月22日（金曜日） 10時～12時10分

## 2 場 所

わかくさプラザ学習情報館 2—1会議室

## 3 出席者

委員（16名）

（敬称略、順不同）

区 分	氏 名	選 出 団 体 名
1号委員	大澤 慶一	関市農業委員会
〃	田中 彰	関市教育委員会
2号委員	岩井 憲司	関市自治会連合会
〃	澤井 基光	関市社会福祉協議会
〃	塚原 佳人	関市消防団
〃	石丸 継治	関市老人クラブ連合会
〃	栗倉 元臣	関商工会議所
〃	杉山 道夫	関市青少年健全育成協議会
〃	山田 和正	関青年会議所
〃	○ 安田 美紀子	関市地域女性の会連合会
〃	長屋 久直	板取まちづくり委員会
〃	古田 明	武芸川まちづくり委員会
〃	小森 恵子	社会福祉協議会上之保支部
3号委員	◎ 田村 弘司	中部学院大学
〃	山岡 一清	岐阜医療科学大学
4号委員	高井 澄恵	公募

◎：会長 ○：副会長

事務局（関市 6名）

関市長 尾関 健治

企画部長 桜田 公明 企画政策課長 森川 哲也

企画政策課 山田 壽紀 篠田 賢人 長屋 高浩

#### 4 欠席者

委員（4名）

（敬称略、順不同）

区分	氏名	選出団体名
2号委員	鈴木 良春	岐阜県関刃物産業連合会
〃	武藤 記子	洞戸まちづくり委員会
〃	馬淵 美智子	NPO 法人 日本平成村
4号委員	波多野 文香	公募

#### 5 次第

1 開会

2 市長あいさつ

3 会長あいさつ

<議題>

4 関市第5次総合計画に関する諮問について

5 関市第5次総合計画の策定について

（1）総合計画策定の趣旨

（2）第4次総合計画の概要

（3）第5次総合計画の策定に向けて

（4）今後の審議会のスケジュール

6 基本構想に関する意見交換

7 閉会

## 午前 10 時開会

### 1 開会あいさつ

< 関市民憲章の唱和 >

### 2 市長あいさつ

(市長)

本日は第5次総合計画に向けての最初の会議である。自治体にとって総合計画とは、これから10年間の夢を含めた将来像を描き、計画を立てながら実行していく、まちにとって大切なものであると考えている。第4次総合計画が終盤にさしかかっているが、来年度に策定する第5次総合計画に向けて、10年間の関市の姿を委員の皆さまのお力添えを頂きながら作成していきたい。

総合計画にはふたつの役割があると考えている。ひとつ目は、行政にとっての「PDCAの母体」となる計画であること、ふたつ目は、大事な「市民の皆さまの声」をより多く吸い上げて、活かしていくことである。後ほど担当課から説明をするが、市民の幅広い声を吸い上げる為に「VOICEプロジェクト」を立ち上げた。本日は、この2つの点からみて、忌憚のないご意見を頂きたく思う。

関市も人口減少が進み、財政も厳しく左団扇ではない。そして、問題は指摘するだけでは解決しないと考えている。安定した行政運営プラス、新しいことに挑戦していくことが、関市の発展に向けて欠かかせないことだと思っている。皆さまには、多くの観点からの熱い議論をお願いしたい。

< 市長、公務のため退席 >

< 各委員、事務局紹介 >

< 事務局より、総合計画審議会の設置条例第6条第2項の規定により審議会の成立の報告 >

### 3 会長あいさつ

夏といえば高校野球であり、地元の関商工高等学校が連勝の末、ベスト16に入った。岐阜県代表として甲子園まで突き進んでほしい。全国でも、話題になっている場所が関市にたくさんあるので、ぜひとも高校野球でも、関市の名前を全国に轟かせて

ほしい。本日は第5次総合計画の第1回目の会議である。行政の根本となるものなので、皆さまの熱い意見を頂きたく、ご協力をお願いしたい。

<議事録署名者の指名>

議題

#### 4 関市第5次総合計画に関する諮問について

(会長)

では、議題4 関市第5次総合計画に関する諮問について、事務局より説明をお願いしたい。

<事務局より、資料1・資料2に基づき説明>

#### 5 関市第5次総合計画の策定について

(会長)

引き続き、議題5 関市第5次総合計画の策定について事務局より説明をお願いしたい。

<事務局より、資料3・資料4・資料5に基づき説明>

(会長)

事務局より、進め方と体制、PRについて、会議のスケジュールの説明があったが、ご意見、ご質問等はないか。推進体制も動き出しており、PRはFacebook等で行い、スケジュールについては説明があった通り進めていく。他に意見がなければ、次の議題6 基本構想に関する意見交換に移る。では、事務局より説明をお願いする。

#### 6 基本構想に関する意見交換

<事務局より、資料6に基づき説明>

(会長)

人口問題についてご説明があったが、ご意見、ご質問等はないか。

(委員)

資料6のグラフデータが平成22年度のものなので、平成27年度のものを出してほしい。5年前のデータでは情報が古く検討がつかない。また、合計特殊出生率とはどのようなものか教えてほしい。

(事務局)

まず、合計特殊出生率とは一人の女性が、生涯生むとされる子どもの数を計算式によって出した数である。

資料6のグラフデータについてだが、国勢調査を基に作成しているので平成22年度のデータで出している。平成27年度のデータについては現在集計中である。速報としての情報では、関市の総人口は89,176人で、前回調査比-2.5%の減少であり、県平均は-2.3%である。人口減少は確実に進んでいる。しかし、15歳未満の年少人口は全国平均13.7%なので、関市は上回っている。最新の情報によると、沖縄県を除くすべての都道府県で、65歳以上の割合が年少人口を上回っている状態である。

平成28年7月1日現在の関市の高齢化率は、関地区25.7%、洞戸地区39.1%、板取地区47.1%、武芸川地区28%、武儀地区41.9%、上之保地区45.7%、と地区により数値に大きく差がでている。これは国勢調査ではなく、市が独自集計した数値である。

(委員)

資料6の人口増減率についてだが、美濃加茂市、可児市においては、平成27年度の数値が上昇し人口が増加しているが、何か要因はあるのか？

(事務局)

県下21市の自然動態と社会動態を比較すると、美濃加茂市と可児市は死亡者が少なく、自然動態で人口が増加している。社会動態では、転入が多い。名古屋圏からの通勤と外国人の移住が人口増加の要因だとみている。次回、詳細資料を提示する。

(委員)

人口が増加している要因を調査していただくと、関市の今後の参考になる。美濃加茂市はソニーが撤退したにもかかわらず、若い世帯の人口が増加しているので大変興味がある。

(委員)

平成27年度の市民満足度の調査で「公共交通機関の満足度が低く、重要が高い」という最悪の結果が出た。公共交通機関が整っている美濃加茂市、可児市、各務原市、本巣市は名古屋圏への通勤に便利なので、人口が増加している。一方、公共交通機関

が整っていない関市、美濃市、郡上市は人口が減少している。まず、関市がやるべきことは、公共交通機関を整備することだと思う。公共交通機関が整っていないと、人口は減り、企業も来ず、労働力も減る一方であり、定住人口も増加しない。関市の公共交通機関は美濃町線が廃止され、名古屋から関市に来るには岐阜駅でバスに乗り換えるか、名古屋から鵜沼駅へ行き、乗り換えて鵜沼駅から美濃太田駅へ行き、長良川鉄道に乗り換えて美濃太田駅から来るしかない。鵜沼駅から1時間かかる。これでは人口が増加しない。鵜沼駅から直接、関に繋がれば20分弱で着き、名古屋から1時間圏内になる。これにより美濃市も郡上市も救われると思う。関市以北の自治体がどれだけ本気になるかが地域全体の発展・衰退にかかってくる。この10年間で公共交通機関の整備が実現できるかはわからないが、本気で取り組んでいくべき課題だと思う。

(委員)

公共交通機関については、とても大切な視点だと思う。先日、美濃加茂市長と話をする機会があり、美濃加茂市は東海環状道が開通したので、企業を多く誘致でき、山の手の住宅団地の完成で、若い人が多く入ってきているとのことである。また、市外の病院へ行く際に利用するタクシーを無料にするなどしているようだ。関市は高速が便利であり、他の地域から、市の施設を使用したいと申し出もある。

(委員)

鉄道が走っていないので、日常生活において不便を感じる。東京から名古屋までは新幹線だと1時間30分で到着するが、名古屋から関市までは1時間30分以上かかるので、不便である。

(委員)

公共交通機関の整備については、今後10年間の課題である。

(委員)

美濃加茂市と可児市の人口増加を分析するならば、関市が人口減少した要因の分析もお願いしたい。

(委員)

住みやすい街ランキングでは、美濃加茂市、可児市は上位であるが、関市は何位か？

(事務局)

毎年、東洋経済の調査で、813の市区町村の住みやすい街ランキングを出している。その結果は、9位本巣市、36位美濃加茂市、65位大垣市、73位飛騨市、115位高山市、175位美濃市、183位瑞穂市、187位瑞浪市、263位各務原市、272位関市、305

位可児市である。関市のランキングは岐阜県 21 市の中では真ん中であり、全国では四分の一に入っている。

(委員)

学生が美濃加茂市で下宿先を探すことがあるが、アパートはすぐ埋まってしまうようである。関市内のアパートは空いているところが多く、入居の入れ替わりが多いと聞く。

(委員)

資料4、VOICEプロジェクトの「VOICE工房」のワークショップの市民公募委員を30人程度募集しているが、地区の配分や人数はあるのか。

(事務局)

市民公募委員は現在まだ0人である。もし、人数が集まらなければ、各種団体・各地域から主な人を紹介してもらい分野に分かれてワークショップを開催したい。9月開催なので、メンバーを募集している。

(会長)

ワークショップについては、現在進行中ということで理解いただきたい。

(委員)

全国的に人口が減少しているので、増加していくことは厳しいと思う。私は刃物屋を経営しているが、産業では後継者不足の企業も多く、若い人が来てくれないという話もよく聞くので、産業と行政がタイアップし、働き口ができれば人口も増加すると思う。現在、刃物ミュージアム構想もあるので、やっていく必要がある。愛知県、岐阜県の求人レベルが高いので、どのようにしたら人が来るようになるのか考えていく必要がある。

高齢化率が高く、年少人口が少ないので中学校も合併となってしまった。若い世代に過疎地域に住んでもらえる施策をしていくべきだと思う。

全国的に有名になったモネの池に観光客が大勢来て困っているという話も聞くので、観光と人口増加を繋げ上手く取り入れていければいいと思う。

(委員)

今の世代の子どもの数は1人や2人くらいで少ないと思う。子どもが少ない地区は、近所だけでは集団登校ができず、大きくまとめ集団登校をしている現状である。

(委員)

マーゴの近くは人口が増えてきている。関市は農業地域なので、家を建てたくても、

農地の関係でなかなか建てるができないという問題がある。子どもの安全のために新たに街灯を設置したくても、米が育たなくなると苦情が来るなどして許可が下りない。そのような問題を簡素化して、家を建てられるようにすれば人口も増加していくと思う。

(委員)

今までの意見はハード面ばかりだったが、ソフト面の「人と人との繋がりや関わり」を重視していかななくてはいけないと思う。市街地でも過疎地でも一番大切なのは「幸福度」を高めていくことだと思う。

(委員)

今後は、ソフト面も重視していかななくてはと感じている。

(委員)

将来、さらに人口減少していくなかで、やみくもに人口を増やすことばかり重視した結果、治安の悪化を招いたりしないように、防犯・防災についての対策も考えながら計画を立てていくべきだと思う。

(委員)

自然減少もあるが、老人会のメンバーも相当減っており、リーダーのなり手がおらず、人材が育っていない。近年は高齢者の寿命が延びている。子どもとも世帯が分かれている高齢者が多く、子どもに助けてもらえないと聞くので、核家族のことも問題であると感じる。

(委員)

人口減少については日本全体のことなので、避けて通れない問題である。関市で行っている「独居老人見守りサポートシステム」は板取地区だけの取り組みなのか。

(事務局)

「独居老人見守りサポートシステム」は地方創生の事業の実証実験として、モデルで板取地区のみで行っている。人感センサーの利用希望者を30台分、板取地区で求めたが、設置費用や月々の通信料の負担感などもあり、希望者6世帯でスタートした。人感センサーで感知した情報を、遠方の家族や、見守りを担当している地域委員に配信している。随時情報が入るので、家族からの連絡が密になるなど、良い効果もでていいる。機器や通信料の自己負担を減らしていくことが利用者の増加に繋がるので、今後の課題である。板取地区で検証しながら、今後、各地域で方向性を定め、取り組んでいく事業である。

(委員)

私も人口問題が大切だと思っている。時代の変化のスピードが速いと感じる。今後の10年先を考えると若い人を地域とどめるのか、他の地域の流れを作り呼び込むのかで、考え方が全然違ってくる。

新しい産業のありかたや、人を寄せるための先進の目線をいれていくと10年後の関市は魅力あるまちになるかもしれない。

(委員)

関市の人口が減少しており、私の地域の自治会65世帯のうち、子どもを含む家が3世帯である。子どもが少なく、祭りの神輿も担げない状態である。地域に楽しみがなくなっており、魅力が減っている。私の3人の子ども達も、関市を離れて世帯を持っており、子育てが間違っていたのかもしれないと感じている。自分の老後も心配である。

(委員)

資料6の平成27年度「市民満足度調査」の結果についてだが、市民が思う満足度・重要度と、行政が思う満足度・重要度は違うと思う。現在は介護や福祉が重要とされているが、関市の将来を担う人口増加には子どもを増やすことが重要だと思う。子どもを生むための予算をどれだけ行政がかけられるかが人口増加の鍵となってくると思う。

(事務局)

市民満足度調査についてだが、4つに分類すると、タイプIは重点的に進めるべきところである。PDCAの起点が市民満足度であり、市民満足度の分析から予算をつくり、それを基に総合計画を策定していく。第5次総合計画では「人事と予算と行政改革をつなげサイクルをつくる」ことを目指したい。現在、市民は介護や高齢者が大事だと言っているが、10年先を見据えると子育て支援が大事になる。今後は重点的なプロジェクトを市民に見せていきたいと考えている。

(委員)

昨年の秋からモネの池が有名になり、多くの観光客が来ている。郡上市から来る人が多く、トンネル内は2車線でもその後1車線になってしまう。大型車も通りにくく、また板取地区は袋路になっているので、道路を整備してほしい。

また、お見合いしていいところまでいっても、男性の住まいが板取地区というだけで上手くいかないことが多い。

さらに、空き家対策も地域で進めており、昨年度から本年度にかけて若い世帯が8世帯くらい来た。板取地区の北部で定住し自治会と繋がってもらえているようだ。

ちなみに、モネの池は大変にぎわっており、自治会でも、駐車場を確保し250台停

められるようにした。最近では中国人が観光バスで来ているようである。モネの池が観光地として長く続くよう期待している。地域おこし協力隊にも協力してもらい、今後も力を入れていきたい。

(委員)

先日はJ A Fの冊子に関市特集されていたので、ますます観光客が増えるかもしれない。

(委員)

すばらしいロゴが出来たことに感激している。近年は核家族化が進み地域に高齢者ばかりになった。私たちの世代は、まだ核家族ではなく、大家族で生活していた。若い世代は進学や就職で市外に出ると思うが、帰ってこられる故郷にしていけるとよいと思う。若者がUターンしたくなる魅力あるまちにしていかなければならないと思っている。大自然や田舎の豊かな暮らしの良さをアピールしていきたい。

(会長)

皆さまからの意見はまた事務局で検討してほしい。ふるさと納税の品が出ていたが、高島屋と関市と美濃加茂市のコラボも良かった。前回の水の案も良い。人口減少は簡単には止められないが、プラス思考で計画の作成にご尽力頂きたく思う。

## 7 閉会

(事務局)

本日皆さまから頂いたご意見は、推進本部・庁内でも伝え頑張る次第である。

(企画部長)

これから2年かけて総合計画を策定していく中、10年先を見据えていくことが大切であると感じ、重点プロジェクトの検討を始めた。皆さまの任期は平成29年度6月までとなっているが、引き続きご協力をお願いしたい。今後とも、様々な観点からのご意見を賜りつつ、より良い関市にしていくために、どうぞよろしくお願いしたい。

午後0時10分閉会